

【目次】

1. 劇作家・故菊田一夫が民社党へ贈った詩が発見されました、9月4日！
2. 100年前の1917（大正6）年9月9日、賀川豊彦が友愛会神戸連合会で講演！
3. 東北学院大学公開シンポジウム「平和憲法と鈴木義男」が9月30日に開催へ！
4. 連載「日本労働会館物語」第68回—労働運動家・賀川豊彦 その3—

1. 劇作家・故菊田一夫が民社党へ贈った詩が発見されました、9月4日！



この程、劇作家・故菊田一夫が民社党に贈った詩が発見され、旧民社党関係者による揮毫の上、額装されて9月4日に当館に寄贈されました。詩は「民社党が退けば民主主義が退く 民社党が進めば民主主義の花が咲く」との言葉から始まっています。本詩について今後、詳細を調査します。

2. 100年前の1917（大正6）年9月9日、賀川豊彦が友愛会神戸連合会で講演！

キリスト教伝道者、社会運動家の賀川豊彦は、同時に友愛会で活躍した労働運動家でもあります。賀川が友愛会に参加する切っ掛けは、1917（大正6）年9月9日に講演を行ったことです。

故隅谷三喜男（東大教授）はその著『賀川豊彦』で、「1917年9月9日夜、友愛会神戸連合会の特別公演会が、キリスト教青年会館で聴衆800名を集めて開かれた。友愛会会長鈴木文治が「米鉄禁輸事情」について講演したほか、神戸連合会主務の高山豊三や大阪連合会主務の松岡駒吉などが話をしたが、その演説者のひとりに賀川豊彦がいた。かれは「鉄と筋肉」と題して演説した。・・・これを契機に、賀川は友愛会と関係を生じ、同年10月には神戸連合会の評議員に推された。以下、略」と記述しています。労働運動家・賀川豊彦の誕生であり、彼はその後、神戸を拠点に友愛会系労働運動を主導し、彼の労働運動理論は「賀川イズム」と呼ばれました。

3. 東北学院大学公開シンポジウム「平和憲法と鈴木義男」が9月30日に開催へ！



東北学院大学2017年度公開シンポジウム「平和憲法と鈴木義男」が9月30日（土）13:00～16:00、東北学院大学土樋キャンパス・押川記念ホール（仙台市）で開催されます。内容は基調講演3本（古関彰一氏、油井大三郎氏、仁昌寺正一氏）と、講演者によるパネルディスカッションです。鈴木義男（1894.1.17～1963.8.25）は社会党や民社党の結党に参加し、1947年の片山内閣では司法大臣を務めています。

4. 連載「日本労働会館物語」第68回—労働運動家・賀川豊彦 その3—

友愛労働歴史館の企画展「賀川豊彦と友愛会・総同盟」は、賀川が労働運動に残したものとして①「賀川イズム」、②川崎・三菱争議の教訓、③労働運動への資金援助、を挙げています。今回は②川崎・三菱争議の教訓と、③労働運動への資金援助について記述します。

川崎・三菱争議の教訓とは、政府・経営側を驚愕させた賀川豊彦の「工場管理宣言」と、それ

がもたらした悲惨な結末です。1921（大正 10）年に神戸で起きた川崎・三菱争議は、賀川豊彦が指導したことで知られていますが、争議の中で出された「工場管理宣言」が一つの仇となり、労働側の惨敗で終わった争議としても知られています。



「工場管理宣言」は本来、賀川によれば「産業管理は暴力による工場占領ではない。暴に報ゆるに愛を以ってし、悪に報ゆるに最善を以ってしたのが工場管理である。我等は会社を愛し、国家を愛し、社会を愛し、全産業を愛するが故に、破壊に代わる工場管理を採用し、「要求を貫徹する迄、各々部署につき、工場の仕事をみんなで管理し、工事を進める」というものでした。しかし、政府や経営者は、「工場管理宣言」を奇貨とし、労働者が経営権を奪い、所有権を侵害するとして、軍隊をも出動させる激しい弾圧に乗り出したのです。

川崎・三菱争議の後、その教訓を胸に現実的、漸進的な労働運動に取り組んでいく労働者・労働団体が出てきます。例えば川崎造船を解雇された井堀繁雄（1902～1983）はその後、埼玉県川口を拠点に現実主義労働運動に取り組み、多くの争議を指導する中で、この地を総同盟の一大拠点としました。彼は戦後、日本社会党・民社党の結党に参加し、衆議院議員としても活躍。協同組合活動にも取り組み、全国生協連合会会長などを務めたのです。

労働運動への資金援助とは、賀川豊彦による労働運動への資金援助です。故隅谷三喜男（東大教授）はその著『賀川豊彦』で、「賀川が労働運動に対して大きな影響力をもっていた、ある意味でもっとも大きい要因は、労働運動に対する資金援助であった」と述べ、「この時代、労働組合は資金的に貧弱で、争議の指導者は争議で解雇されればたちまち生活に窮した。この面倒を一人ひとり見てやり、運動上のまとまった資金を提供したのは賀川であった」と書いています。

賀川豊彦は『死線を越えて』などの莫大な印税収入があり、これを労働争議の被害者救済や労働学校へ提供しました。村島帰之（毎日新聞記者、大阪労働学校講師）は「賀川豊彦氏の社会事業とその特異性について」の中で、賀川の『死線を越えて』の印税（印税 10 万円）について、神戸労働争議後始末費用・3 万 5 千円、日本農民組合費用・2 万円、鉱山労働運動費用・5 千円、友愛救済所基本金・1 万 5 千円、消費組合設立費用・1 万円、大阪労働学校基金・5 千円、その他 1 万円、と記述しています。当時の 1 万円は、現在では 5000 万円にあたりとされます。

また、賀川は総同盟の日本労働会館建設も支えました。1930（昭和 5）年、総同盟は組合員カンパで唯一館（現友愛会館）を買収し、日本労働会館としますが、その時、賀川豊彦は安部磯雄・鈴木文治・新渡戸稲造・吉野作造とともに日本労働会館建設後援会を作り、総同盟の唯一館買収を資金面で支えました。当時、総同盟が集めたカンパ金は約 3 万 8 千円、その内の約 1 万円を賀川ら建設後援会が集めたとされます。労働運動非合法の時代、非常な献身と言えましょう。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

唯一館から 123 年、友愛会から 105 年
